

高等学校 令和6年度（1学年用）

教科 国語

科目 言語文化

教科：国語

科目：言語文化

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ F 組

使用教科書：（ 高等学校 言語文化（数研出版） ）

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特性を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で使える力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	A 古文の世界を楽しむ1 【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「児のそら寝」（宇治拾遺物語） ・歴史的仮名遣いの読み方を理解させる。 ・古文を音読し、古文と現代文の違い（歴史的仮名遣いで表記されている・主語や助詞の省略が多い・現代語には用いられない言葉がある・現代語とは異なる意味を持つ言葉がある・係り結びなど現代文とは異なる文の法則も用いられているなど）について気づかせる。 ・「いろは歌」の学習を通して「ゑ」や「ゐ」などの仮名遣いについて学習させる。 ・古語辞典の使い方を覚えさせ、重要語句を辞書で引き、意味を理解させる。 ・児と僧のやりとりから二者の関係性を推測し、そこから当時の文化や風習、社会情勢について理解させる。	○		○	【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 〔(2) ウ〕 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 〔B (1) ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に児と僧の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	○	○	○	6
	B 古文の世界を楽しむ2 【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「検非違使忠明」（宇治拾遺物語） ・古文の描写から当時の建物の造りや役職などについてインターネット等を活用して調べ、理解させる。 ・『宇治拾遺物語』と『今昔物語集』の話を読み比べ、類似点と相違点についてまとめさせる			○	【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 〔(2) ウ〕 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B (1) エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く『宇治拾遺物語』収録話と『今昔物語集』収録話の違いを抽出し、学習課題に沿って両説話の性格の違いをまとめようとしている。	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1
	C 受け継がれる古文1 【知識及び技能】 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「羅生門」 ・本文を読み、5W1Hを読み取らせせる。 ・『方丈記』等其他の作品の記述や中学校での歴史の学習等から、設定されている時代背景について理解させる。 ・「羅生門」付近の雰囲気や下人の人物像について考えさせる。 ・「老婆」の言葉から「老婆」の論理や「正義とは何か」「悪とはなにか」について考えさせる。 ・書き換えられた結末部分によって読者の印象がどう変わるかや作者の創作意図について考えさせる。 ・「下人」がこの後どうなったか自分の考えを文章にまとめさせる。 ・比喩表現の効果について理解させる。 ・作者芥川龍之介について調べさ		○	○	【知識及び技能】 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。〔(1) エ〕 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。〔B (1) イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って自分の考えを文章にしようとしている。	○	○	○	9
	D ②受け継がれる古文2/探究の扉 【知識及び技能】 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語」（今昔物語集） ・『今昔物語集』「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語」を読み、『羅生門』との相違点をまとめさせる。 ・類似点がどのような効果をもたらしているか自分の考えを文章にまとめさせる。		○	○	【知識及び技能】 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。〔(1) ア〕 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B (1) エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く『羅生門』と『今昔物語集』の差異を見極め、学習課題に沿って考察しようとしている。	○	○	○	4
	定期考査						○	○		1

2 学 期	A 記録する文学 【知識及び技能】 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思考力・判断力・表現力等】 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「沖縄の手記から」 ・沖縄戦の中で生きる「私」と「当間キヨ」の心情とその変化について読み取らせる。 ・沖縄戦の経緯について調べてまとめさせる。 ・小説内の「当間キヨ」の生き方について自分の考えを文章にさせる。	○	○	○	【知識及び技能】 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)ウ〕 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができている。〔B(1)オ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 近現代に書かれた戦争文学を積極的に調査し、学習課題に沿って発表しようとしている。	○	○	○	6
	B 語感を磨く 【知識及び技能】 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「側転と三夏」 ・「私」から見た姉妹の性格の違いを読み取りまとめさせる。 ・「小4の時の運動会」が話題に出る前と後で、「姉」に対する「私の心情がどのように変化したか読み取り説明させる。 ・「側転と三夏」という題名の意味について話し合わせる。 ・他に題名をつけるとしたらどのような題をつけるか話し合わせる。	○		○	【知識及び技能】 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。〔(1)エ〕 【思考・判断・表現力等】 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 〔B(1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで題名の意味を解釈し、学習課題に沿って話し合いに参加することができる。	○	○	○	8
	定期考査						○	○		1
	C 現代にも生きる教え 【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「つれづれなるままに」 「ある人、弓射ることを習ふに」(徒然草) ・古文を音読し、作者の主張を読み取り、わかりやすい言葉で説明させる。 ・古典の世界の人々と現代の人々の考え方の共通点と相違点について話し合い、発表させる。	○		○	【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔(2)ウ〕 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 〔B(1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に漢文調の表現について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	7
	和歌による心の交流/探究の扉 【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「芥川」(伊勢物語) 「在原業平中将の女…」(今昔物語集) ・古文を音読し、登場人物の行動と心情を理解させる。 ・和歌の形式や修辞法について調べさせ、「白玉か…」の和歌でどのように用いられているか理解させる。 ・和歌に込められた男の心情について理解させようと自分の言葉で説明させる。	○		○	【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔(2)ウ〕 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く『伊勢物語』と『今昔物語集』の違いを抽出し、学習課題に沿って文章表現についての話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	7
	定期考査						○	○		1
3 学 期	A 平安宮廷文学の世界/探究の扉 【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「雪のいと高う降りたるを」(枕草子) 「香炉峰下…」(白氏文集) ・古文を音読し、登場人物とその関係について理解させる。 ・敬語の種類とその使い方について理解させる。 ・「香炉峰の雪」の典拠となった白居易の漢詩を音読し、その内容と枕草子とを比較させる。			○	【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔(2)ウ〕 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く『枕草子』と『白氏文集』の主題の違いを考え、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	6
	B 日本語の中に生きる漢文/故事と成語 【知識及び技能】 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「入門一」「漁夫之利」 ・漢文の口調に慣れ親しませる。 ・返り点と送り仮名のきまりに習熟させる。 ・訓点に従って漢文を書き下し文にさせる。 ・「漁夫の利」という故事成語が基づく寓話の内容を理解させる。		○	○	【知識及び技能】 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。〔2ア〕 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。〔B(1)オ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 学習課題に沿って、粘り強く漢文の訓読、書き下し文に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1 合計

A horizontal number line with several tick marks. The number 70 is written in a box at the far right end of the line.